

(一財)新潟県バスケットボール協会(NBBA)主催

競技会運営ガイドライン(令和3年10月8日版)



NBBA
NIIGATA BASKETBALL
ASSOCIATION

【はじめに】

このマニュアルは一般財団法人新潟県バスケットボール協会(以下「NBBA」という。)主催の競技会開催のため、新型コロナウイルス感染症(以下「COVID-19」という。)対策について示したものです。

なお、運用については、政府・各地方自治体・厚生労働省・文部科学省及び国立感染症研究所の最新の方針・情報を前提に、スポーツ庁・日本スポーツ協会・新潟県スポーツ協会及び公益財団法人日本バスケットボール協会(以下「日本協会」という。)などの上位団体の指針に従うものとします。

- ・このガイドラインは、NBBAが主催する大会のみに拘束力を行使することとします。
- ・このガイドラインは、改定が必要とする場合に見直しを行います。
- ・このガイドラインは、日本協会が9月9日付で発出している「JBA バスケットボール 事業・活動実施 ガイドライン(手引き)」(2021年9月9日作成 第4版)を参考にしています。
(HP: www.japanbasketball.jp)

【感染対策のポイント】

大きく分けて「個人の感染予防」と「感染者発生時の濃厚接触者の最小化」の二つとなります。

なお、国立感染症研究所感染症疫学センターが公表している濃厚接触者の定義は以下のとおりです。

(新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要項 2020年5月29日公表より抜粋) <https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/2019nCoB-02-200529.pdf>

※ 「濃厚接触者」とは、「患者(確定例)」「(無症状病原体保有者)を含む。以下同じ)の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。

- ・ 患者(確定例)と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を含む)があった者。
- ・ 適切な感染防護無しに患者(確定例)を診察、介護若しくは介護していた者。
- ・ 患者(確定例)の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者。
- ・ その他

手でふれることの出来る距離(目安として1メートル)で、必要な感染予防策なしで「患者(確定例)」と15分以上の接触があった者。(周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する。)

※ 「体調不良者」とは、以下の目安に該当する者と考えられる。

- ・ 息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱などの強い症状のいずれかがある場合。

- ・ 重症化しやすい人(高齢者や基礎疾患がある人)で、発熱やせきなどの比較的軽い風邪症状がある場合。
- ・ 比較的軽い風邪症状が続く場合。
◎発熱症状が出ない感染ケースもあるため、上記症状を感じた場合は必ず相談してください。

※ 新型コロナ接触確認アプリ(COVID-19 Contact-confirming Application : 以下 COCOA)による「接触通知」について。

2020年9月4日現在、厚生労働省からリリースされたアプリをダウンロードして利用する「COCOA」が全国運用されている。

このアプリを登録した者同士が、約1メートル以内に15分以上近接した時に Bluetooth 機能により自身のスマートフォンに2週間分のログが残り、その後、相手が患者(確定例)若しくは無症状病原体保有者となり、陽性者登録をした際には、自身のスマートフォン内にログが残っている時に「接触」通知がされる。2020年8月21日に、厚生労働省からの通達として、COCOAによる接触通知を受けたものは、保健所などを經由して「PCR検査を受ける」ことになっているが、本人が濃厚接触者に当たるかどうかは保健所の判断となります。

(参照:<https://www.mhlw.go.jp/content/000661724.pdf>)

このことから、濃厚接触者にならないためには各個人の「予防」が必要です。

これらを踏まえ、具体的な対策方法を次に示します。

- ・ 3密 (密閉・密集・密接)を避ける
- ・ 手指衛生
手洗いは次ページのイラストを参考に、30秒以上かけて行う
アルコールを用いる時は、70%以上の濃度のものを用いる
- ・ マスクの着用 (ユニバーサルマスクポリシー(注))
特に、咳エチケットを徹底するとともに、感染力の強いウイルスが増えていることから「不織布マスク」の使用を推奨します。

(注) すべての者が病原体保有者であり、感染拡大防止のためにマスクを装着する考え方
(マスク単独での感染対策は不十分であることに留意する)

- ・ 周囲環境や物品の消毒
接触感染対策として、動線が交差するところなどの消毒を考慮する
アルコールを用いる時は、70%以上の濃度のものを用いる
0.05%次亜塩素酸ナトリウムも使用可能であるが、希釈の際には十分な換気が必要である

感染症対策へのご協力をおねがいします

！手洗い

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。

外出先からの帰宅時や**調理の前後**、**食事前**などこまめに手を洗います。

正しい手の洗い方

手洗いの
時に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう



1 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



2 手の甲をのぼすようにこすります。



3 指先・爪の溝を念入りこすります。



4 腕の背を洗います。



5 反対側の手のひらをねじり洗います。



6 手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

首相官邸
Prime Minister's Office of Japan

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

厚労省

検索



【運営時における感染対策】

日々の生活及びバスケットの練習時において、適切な感染対策を講じて問題が発生していなければ、競技会開催時においても有症状者はいないはずであるが、市中感染のリスクが常にあるため、自身が無症状病原体保有者となる可能性は否定できません。すでにワクチン接種を行ったとしても、同様であると思われます。

このため、感染対策においては、システムやマニュアルの個人・チームでの遵守が最重要となります。

また、ワクチン接種は政府及び日本協会において推奨しています。本ガイドラインでも推奨しますが、強制をお願いするものではありません。

今一度、スタッフ・チームメイト・対戦相手及び競技会運営に関わる全てのスタッフを守るため、各人が意識を持って取り組むことが必要です。

以下、競技会運営時における感染対策のポイントを記載しますが、設備・物品などに制約があり、全てに対策を講じることが困難である時は、最大限それらに準ずるような対策を試み、それでも十分な対策が困難である場合には、競技会中止も検討することになります。

このガイドラインで提示する感染対策は、感染拡大の確率を下げるための対策です。「濃厚接触者」の最終的な認定は保健所が総合的に判断するものであり、本ガイドラインの指標による判断は行いません。

1 競技会開催判断と条件

NBBA内に設置した COVID-19 対策チームが、以下の条件をもとに判断します。

- (1) COVID-19 対策チームとは、NBBA に所属する、会長・副会長・専務理事・副専務理事・競技会委員長・スポーツ医科学委員会委員長・U18、15、12部会長・ユース育成委員長及び事務局長で構成されたチームです。
- (2) 新潟県内に緊急事態措置、まん延防止等重点措置が実施された時は競技会を中止します。
- (3) 競技会開催期間中にチーム関係者に陽性者や濃厚接触者が発生した時は、競技会の継続について COVID-19 対策チームが判断します。
- (4) 政府・各都道府県の自治体及び県スポーツ協会及び各会場の方針で競技会（試合）開催が可能であることが必要です。
- (5) 各選手が、身体的に試合可能なコンディションであることが必要です。
- (6) 競技会開催前、棄権や辞退するチームが多数出た時は、開催を中止します。

（注）多数とは、競技会ごとに COVID-19 対策チームが判断します。（競技会要項に明記する。）

目安は参加チーム数の10%とします。

（注）競技会開催中においては、市中での蔓延状況や陽性者及び濃厚接触者の状況において COVID-19 対策チームが開催継続の判断を行います。

- (7) 競技会における観客の入場については、各競技会の大会要項に記載し、その都度、協会ホ

ームページで案内を行います。

2 試合当日の流れにそった感染対策

すべての場面で共通する注意点は、以下の通りです。

- (1) 3密の徹底
- (2) タオルやドリンクボトルの共有は避けて、可能な限りソーシャル・ディスタンスを保つ
- (3) 手指衛生の徹底
- (4) ウォーミングアップおよび試合中の一部を除き、全関係者がマスクを着用する
- (5) 軽微でも身体症状に異変があれば、無理をしない、無理をさせない

3 試合当日まで

各チームで感染対策責任者を設置し、適切な感染対策を講じた上で、以下を実施します。

競技会日程が変則開催の時は、提出する書類は別途主管する担当者から、大会要項と一緒に連絡を行います。

(1) 個人に対して

① 2週間以内の行動記録の保管

必要時、濃厚接触者認定における判断材料となることがあります。

② 毎日の検温と自覚症状の確認

確認内容は、次の事項を網羅します。

ア 体温

イ 倦怠感の有無

ウ 咳の有無

エ 喉の違和感や痛み

オ 味覚・嗅覚の異常

各チームの感染対策責任者へ、報告する

◎ NBBA公式ホームページに掲載している、コンディショニングチェック表をダウンロードして使用します。

<https://niigata-basketball.jp/participant>

(2) チームに対して

各チームの感染対策責任者は、主催者からコンディショニングチェック表の提出を求められたら速やかに提出できるようにし、少なくとも3週間保管してください。

(3) ワクチン接種について

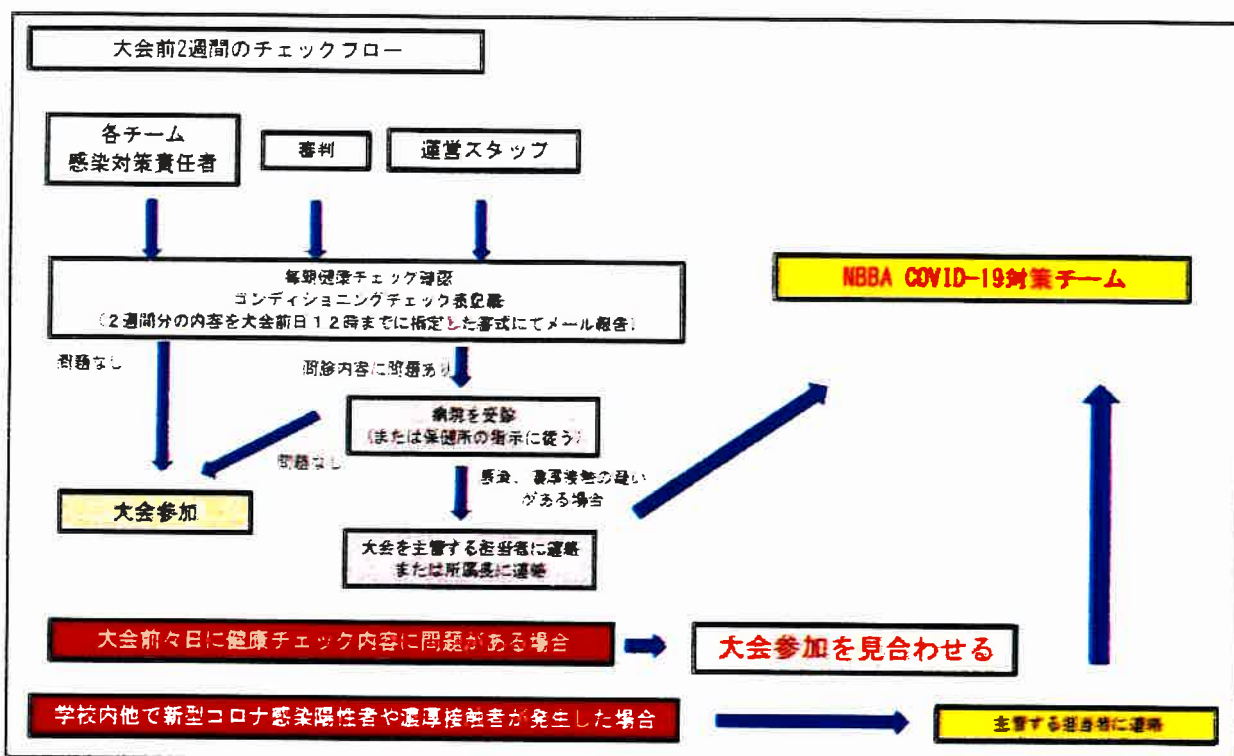
ワクチン接種は政府も推奨していますので本ガイドラインでも推奨しますが、強制をお願いするものではありません。

ワクチン接種の副作用により、発熱・倦怠感を生じる可能性があり、コンディション低下に繋がることがあります。比較的若年者に副反応が強く出る傾向があると報告されていますので、少なくとも競技会・講習会参加の1週間前には接種しないことを推奨します。理由として、発熱が参加可否判断になり得るためです。(発熱が生じている場合にワクチン接種の副反応によるものか、感染による発熱なのか区別がつかないためです。)

(4) 大会前日までのコンディショニングチェックについて

チェック項目該当者は、症状に応じて医療機関を受診するなどし、医師が感染の可能性が低いことを診断またはPCR検査により陰性判定の場合は参加可能です。

大会参加日から4日前以降に体調不良者に該当する場合は、COVID-19対策チームに報告をしてください。



- (4) 運営スタッフ、審判員、報道関係者、共催団体関係者は、コンディショニングチェック表を各自で最低3週間保管してください。
- (5) 観客、運営スタッフ、報道関係者、共催団体、その他を含めた入場者数は、その時点での社会情勢に応じて COVID-19 対策チームで検討し決定します。
- (6) 協会は、入場予定者全員をリスト化します。

なお各チームは競技会開催前にベンチ入り可能な19名以下(当日ベンチ入り可能なヘッドコーチ1名、アシスタントコーチ1名、引率責任者1名、マネージャー1名、選手最大15名)の登録を行い、これに加えてトレーナー1名の登録を許可します。

(注) ベンチ入り可能な選手以外の会場への入場については次のとおりですが、会場によ

っては制限を設ける場合があります。

・ 公共体育館 30名を限度

・ 学校体育館 20名を限度

(注) (株)ホイスルスポーツ社によるライブ配信ができない時は、各チーム1名による、撮影を許可をします。事前に申請を必要とします(申請方法は、別途競技会毎に定めます。)

(7) COVID-19 対策チームあての連絡窓口であるメールアドレスに、各チームからの質問に対応します。メールアドレス：nbba.covid_19@niigata-basketball.jp

(8) 競技会参加チームの宿泊に関しては、以下に留意してください。

いずれも体調不良者が発生した場合に際して、集団感染を少なくするための方策の一つです

① 宿泊部屋は個人利用が望ましい。

② 移動に際しては、チーム専用バスの利用が望ましい。

③ 各場面において人数制限を行い、集団行動を避けることが望ましい。

(注) 参加チームが学校の場合は、学校長と相談して判断してください。

4 試合会場への入場

(1) 当該試合の前日、または前々日に活動を行ったチームにおいて、当該試合前日、または当日に体調不良者がチーム関係者にいる場合、そのチームは競技会に参加することはできません。

(注) 選手等自身の体調が良くない場合(発熱・咳・喉の痛み・倦怠感・味覚の異常等)、また同居の家族等に感染が疑われる方がいる場合は、競技会の参加を自主的に見合わせる。

(注) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、競技会への参加が不可となった場合、当該の競技会関係者に対しての誹謗中傷が行われないう、NBBAとチーム関係者で最大限の配慮を行う。

(注) 県外等への往来を行う場合は、引続き感染防止に努めるとともに、特に感染者が多数確認されている地域への往来は慎重に対応し、感染対策を徹底し、体調管理に努める。

(2) 過去14日以内政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされる国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合は、競技会の参加を自主的に見合わせる。

(3) 会場入場時に競技会関係者全員に対して、非接触型体温計により検温を行い、37.5度以上の体温を有する競技会関係者は、腋窩(脇下)体温計にて再検温を行う。その結果、再度37.5度以上ある場合は入場を認めない。

(注) チーム関係者の場合 → チームは競技会へ参加することができない。

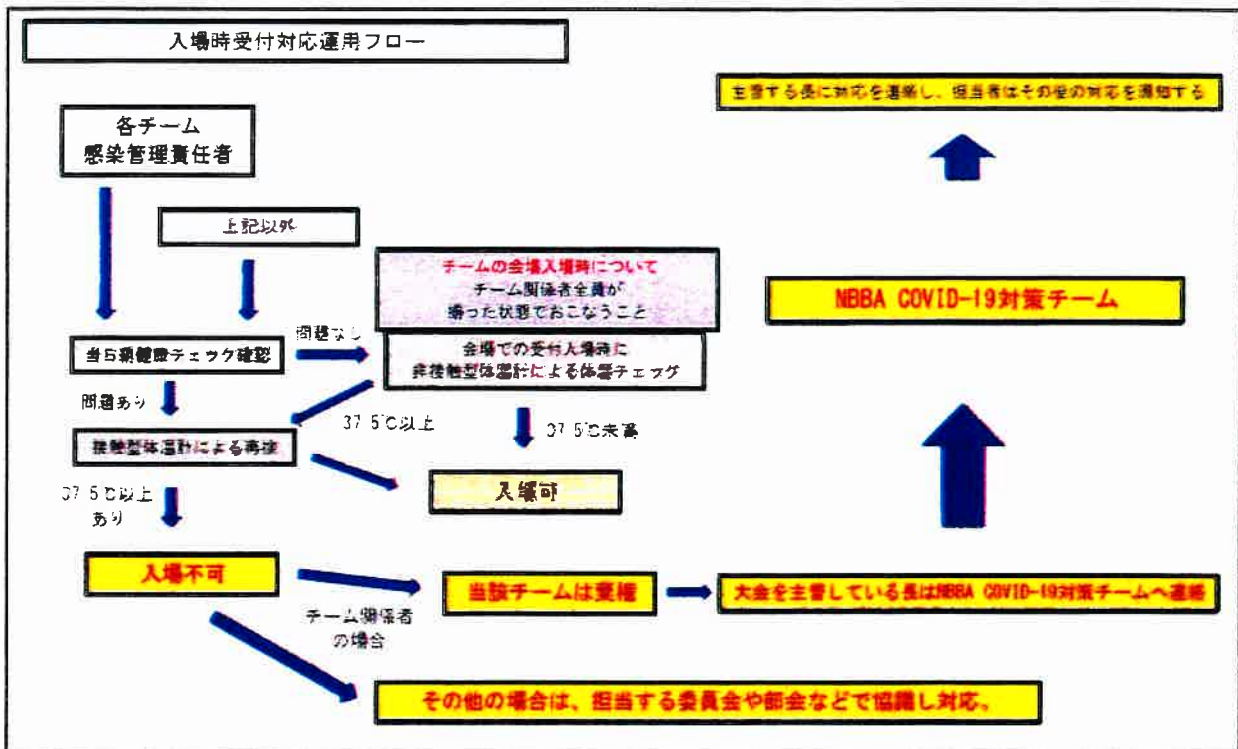
(注) 審判の場合 → 割当の変更をする。

(注) 37.5度以上の基準について

感染症法の届け出基準により、「発熱とは体温が37.5度以上を呈した状態」としているため。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku_kansenshou/index.htm

- (4) 入場可能時間は、第1試合のチームは、試合開始の70分前、第2試合以降のチームは試合開始の90分前とする(第1試合は会場の都合により60分前となる場合もある。)
- (5) 入場受付時に蜜にならないように、各会場で配慮を行う。
- (6) 入場時に健康チェックシートを提出する。記載内容に不備があった場合は入場できません。
(注) チェックシートはNBBA ホームページより該当するファイルをダウンロードする。
(競技会によっては、入場時の健康チェックシートの提出を GoogleForm にて行う)
- (7) 必要時、接触型体温計による再確認を行う。
- (8) 入口と出口は別とし、会場内は一方通行にする。
- (9) マスク不装着者は入場できない。
- (10) 入場時に手指衛生用のアルコールを配備する。



5 更衣 (使用体育館のマニュアル・運用に応じて適宜変更する。)

- (1) 会場備え付けの更衣室は、その広さに従い、一度に使用できる人数を指定する。
 - ① 男子 ギャラリーやアップ会場などで、公然に配慮したうえで更衣を認める。
可能であれば、入場前に最低限の着替えを済ませておくことが望ましい。
 - ② 女子 更衣室を利用する(更衣室内の人数については、競技役員の指示に従う。)
- (2) 使用時間は極力短くし、更衣の最中もマスクを着用すること。
- (3) 審判の更衣室は別で設ける(困難であれば同一となるが、その場合時間を指定。)

- (4) ミーティングは更衣室では行わない。

6 ウォーミングアップエリア

- (1) 相手チームと動線が交わらないように設定することが望ましい。
- (2) ウォーミングアップは息を上げる必要があるため、マスクの着用は必須としない。
- (3) 当該試合コートでのハーフタイムのウォーミングアップは行わないことを基本とするが、コロナ感染症のまん延状況により、COVID-19 対策チームが各実施競技会において判断を行う。
- (4) ウォーミングアップ場所は役員の指示に従う。
- (5) ウォーミングアップ場所が十分に確保できない場合は、試合開始の時間を調整し、選手のコンディショニングを最大限に配慮する。

7 試合開始から終了

- (1) 更衣やウォーミングアップ会場での時間設定や動線を考慮し、各試合間は通常よりも長く設定し、十分な移動時間を設ける（ベンチの消毒が終了した後、次試合の該当チームがコートに入る。）。
- (2) 試合前後、または試合中に握手、ハイタッチ、抱擁等の接触は避ける。
- (3) ボトル、タオル等は他の選手と共用しない。
- (4) ベンチは、1メートル以上の間隔をあけて配置する。
- (5) コート上の選手および審判以外は、原則的にマスクを着用する。
(ただし交代直後でベンチに戻った選手は、呼吸が整うまで、ベンチ後方、もしくはベンチ横に設置するクールダウンエリアで過ごし、その後マスクを装着しベンチに移動する。)
- (6) 選手交代時、ハーフタイム時は手指衛生を徹底する。
- (7) 選手だけでなく、スタッフも適宜行動の前後に手指衛生を行うこと。
- (8) ハーフタイムや試合間で可能であれば喚起を行う。
- (9) 試合終了後はベンチの消毒を行う。
- (10) TOを行う関係者は可能な限りフェイスシールドを装着し、終了後はTO席の消毒を行う。
- (11) フロアーワイパーはフェイスシールドの装着は義務付けない。終了後は席とモップの消毒を行う。
- (12) 試合後のボールの消毒も行う。

8 食事について

- (1) 黙食、対面を避ける、ごみの持ち帰り、会場利用マナー等を徹底する。
- (2) チームの感染対策責任者は責任をもって指導すること。

9 その他

- (1) 開会式・表彰式・閉会式は、その時点の社会情勢を考慮し、開催の有無および参加人数を

COVID-19対策チームで検討し決定する。

- (2) 使用する各体育館で動線を作成する。可能な限り、一般客との動線を分けることが望ましい。
- (3) 選手の怪我防止に最大限配慮する(バスケ手帳を活用する : <https://b-techo.jp>)
- (4) 会場内でミーティングを行わない。
- (5) 会場内で集合写真撮影を行わない。

10 会場使用について(諸室・トイレ・飲食)

- (1) 各会場に感染対策責任者を配置する。
- (2) 競技会関係者全員に、ソーシャル・ディスタンスの確保を促す(可能な限り2m以上。)
- (3) 各諸室の入室者制限を設ける。
- (4) 諸室に手指消毒液を配置する。
- (5) 常に窓を開け換気を行う。常時換気が難しい場合は定期的に換気を行う。
- (6) 連日で同会場を使用して競技会を開催する場合、各日で競技終了後にギャラリーの椅子などを含め、使用した場所の消毒を行う。
- (7) 蓋付きの便器は、必ず蓋を閉めて流水する。
- (8) 手洗いは30秒以上かけ、丁寧に行う。
- (9) ゴミは各チーム(各自)で持ち帰る。
- (10) 感染防止対策に関する掲示物を受付、競技会本部、コート内、更衣室、トイレ等に掲示する。
- (11) ガイドラインの内容が遵守されているか否か、各会場の感染対策責任者は、定期的に会場内の確認を行う。その方法として、NBBAバスケットボール協会HPよりチェックリストをダウンロードしてリストに基づき確認を実施する。

<https://niigata-basketball.jp/participant>

11 その他重大インシデントが発生した場合

(公財)日本バスケットボール協会が公開しているJBAバスケットボール事業・活動実施ガイドライン第4版などを参考にして、NBBA COVID-19対策チームで判断し、対応を決定する。

12 個人情報に関わること

- (1) 競技会参加のために提出する個人情報に関わる書類は、新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる調査のみに使用します。
- (2) 個人情報に関わる書類は、競技会終了後3週間NBBA事務局で保管し、その後、NBBAの責任下において廃棄処分を行います。
- (3) NBBAが主催する競技会の個人情報の土地扱い責任者は、NBBA専務理事とする。

※ 競技会期間中と終了後2週間の連絡体制については、以下の通りとする。

(競技会期間中)

- 1 選手(保護者から) ⇒ チーム責任者 ⇒ 競技会本部 ⇒ COVID-19対策チーム
- 2 選手以外の競技会関係者 ⇒ 管轄する委員会や部会 ⇒ COVID-19対策チーム

(競技会期間中)

- 1 該当者 ⇒ COVID-19 対策チームまで (nbba.covid_19@niigata-basketball.jp)

NBBA 事務局電話 025-378-2877

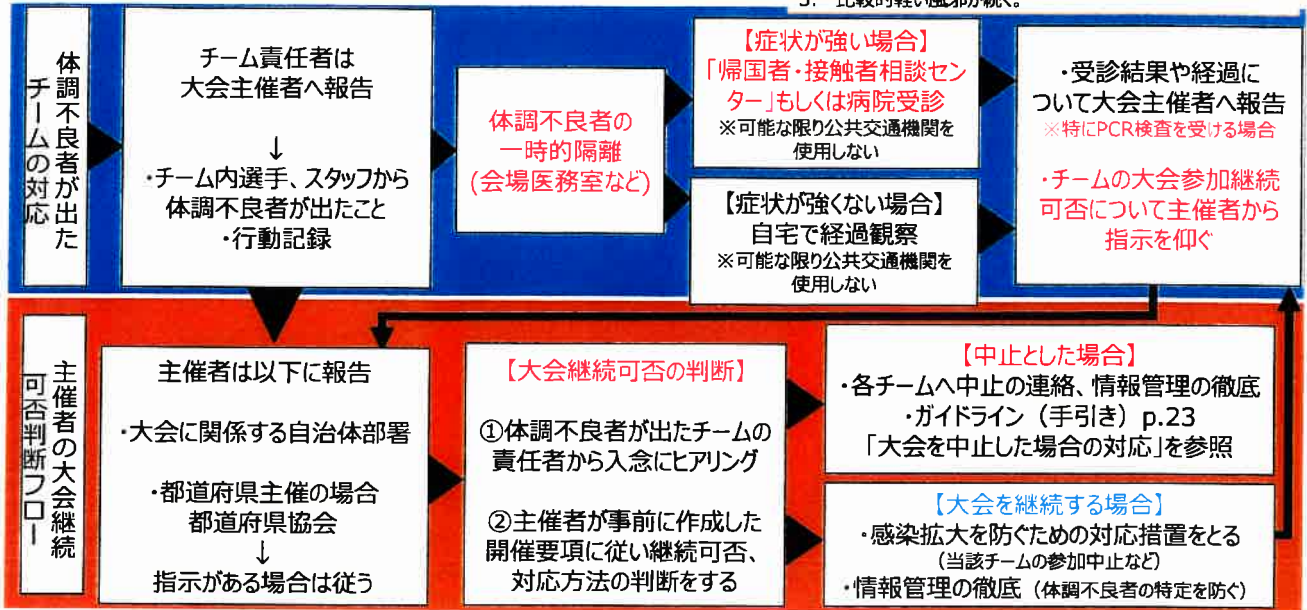
COVID-19 対策チーム携帯電話 070-1490-0054

◎ 次ページに、日本協会が提示した資料を添付しています。参考としてください。

**チーム内の選手・スタッフから
大会中に体調不良者が出た場合の対応フロー**

【体調不良の基準】

1. 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）
高熱などの強い症状のいずれかがある場合。
2. 重症化しやすい方（高齢者や基礎疾患がある人）で
発熱やせきなどの比較的軽い風邪症状がある場合。
3. 比較的軽い風邪が続く。



【大会参加可否の事例① チームから体調不良者が発生した場合】

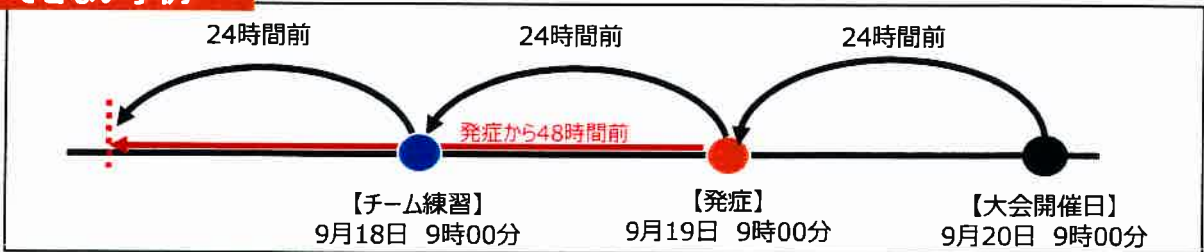
**チームが大会参加
できる事例**

【解説】発症日から遡って48時間以内にチーム練習を行っていないため、チームは参加可能です。体調不良になった方は参加を自粛してください。

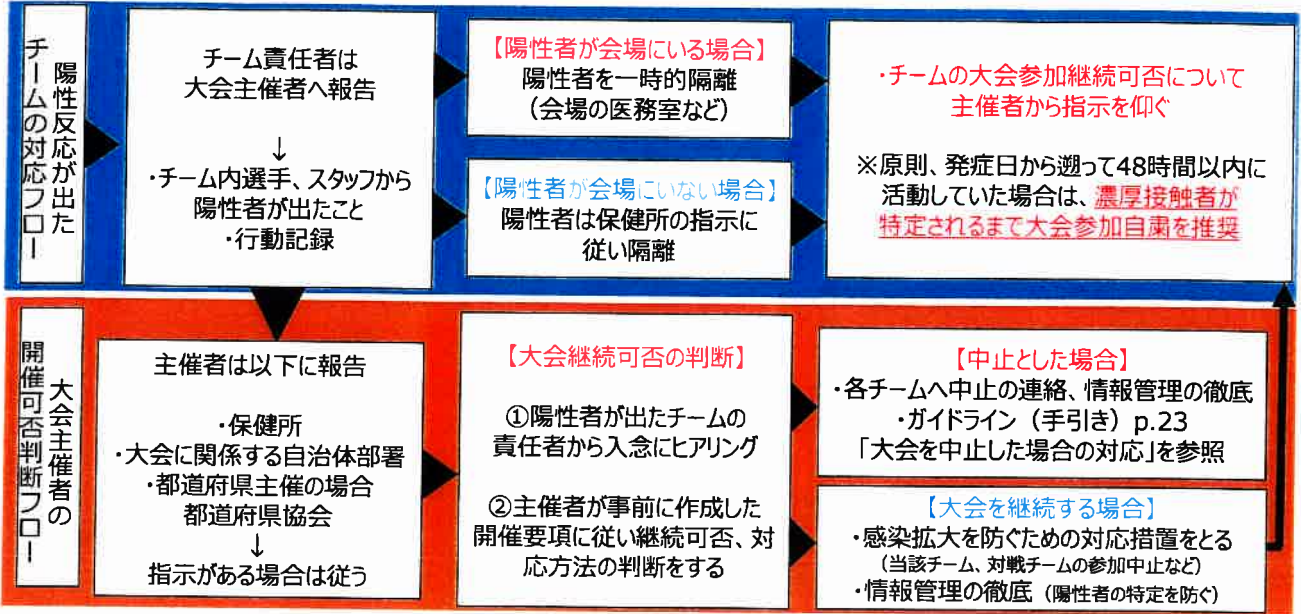


**チームが大会参加
できない事例**

【解説】発症日から遡って48時間以内にチーム練習を行っているため、チームは最低2日間活動を自粛することを推奨します。よって、大会参加も自粛が推奨されます。



チーム内の選手・スタッフから
大会中に陽性反応が出た場合の対応フロー

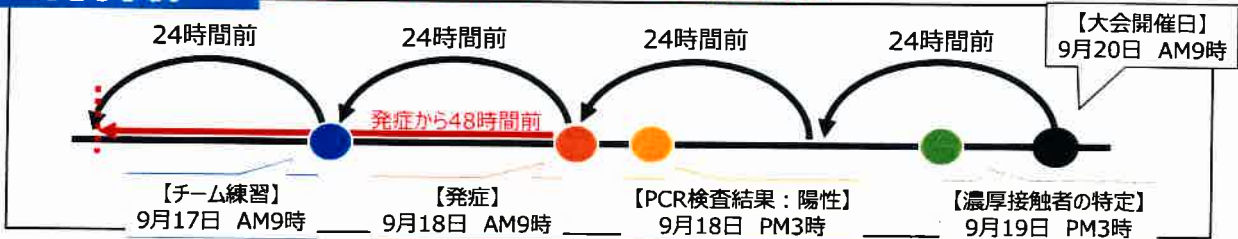


【大会参加可否の事例② チームから陽性者が出た場合】

チームが大会参加
できる事例

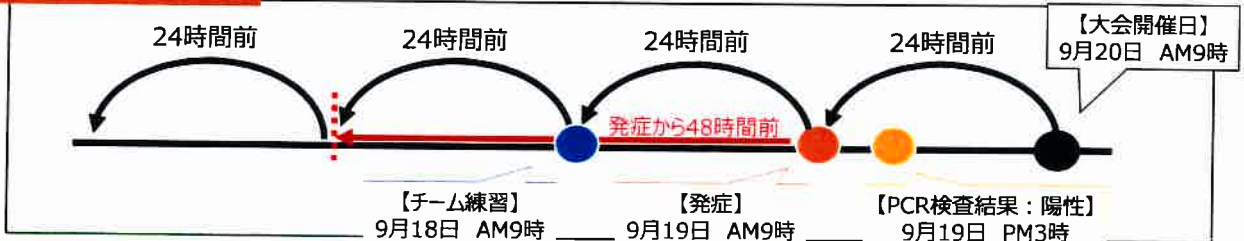
【解説】発症日から遡って48時間以内にチーム練習を行っていましたが、濃厚接触者が特定されたため、陽性者、濃厚接触者以外のメンバーでの大会参加は可能になります。
※試合を行える人数が揃わない場合は、自粛を検討してください。

※「検査結果日」ではなく「発症日」を基準としてください。

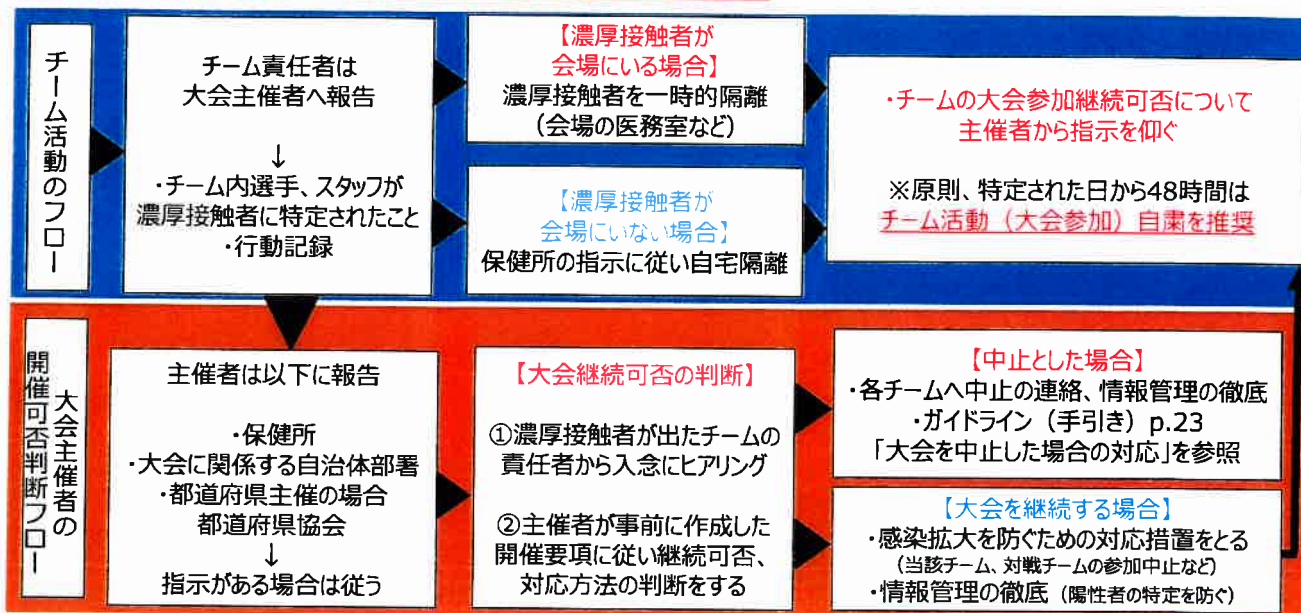


チームが大会参加
できない事例

【解説】発症日から遡って48時間以内にチーム練習を行っていましたが、また、濃厚接触者が特定されていないため、チームは大会参加を自粛してください。



チーム内の選手・スタッフが濃厚接触者として特定された場合の大会参加判断フロー

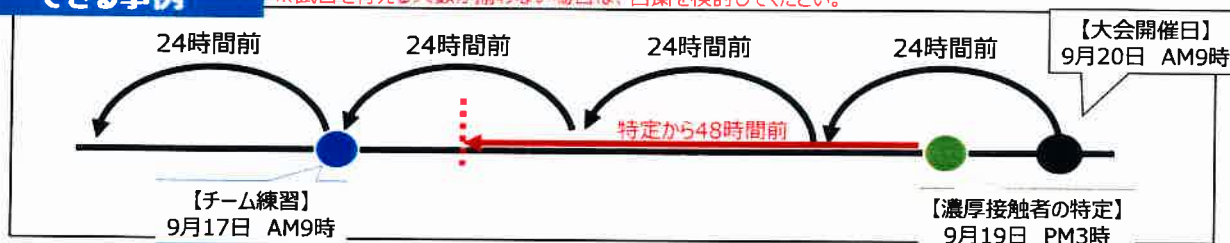


【大会参加可否の事例③ チームから濃厚接触者が出た場合】

チームが大会参加できる事例

【解説】特定日から遡って48時間以内にチーム練習を行っていません。そのため、濃厚接触者以外のメンバーでの大会参加は可能になります。
※試合を行える人数が揃わない場合は、自粛を検討してください。

※「検査結果日」ではなく「発症日」を基準としてください。



チームが大会参加できない事例

【解説】特定日から遡って48時間以内にチーム練習を行っていました。この場合、チームは大会参加を自粛してください。

